

わのやまこふんぐん 上野山古墳群

市指定有形文化財（史跡）

「上野山古墳群」は、赤湯の街並みを眼下に見下ろす二色根山と秋葉山の奥にある一際高く東西に長い上野山（標高約 400m）南側の斜面にあります。かつては多数の横穴式石室（※1）の古墳がありましたが、昭和初期のブドウ園開墾のために失われ、原形を保っているものは少なく、辛うじて南斜面に残ったわずかな古墳群を「上野山古墳群」と呼んでいます。昭和 28 年の調査では、封土（※2）を失って地表に露出した 3 基の横穴式石室が確認されました。

昭和初期の東置賜郡史の調査では、入り口は南側を向いており、小規模な横穴石室を山の斜面を利用して築く「山寄せ式」の古墳だということが分かりました。

また、壊れた古墳からは、飛鳥・奈良時代（7 世紀後葉から 8 世紀中葉）のものと思われる土師器・須恵器（土器の一種）、鉄剣、足金具、円面硯（陶器でできた円形の硯）が出土しました。時期の異なる副葬品があることから、何度か追葬（※3）を繰り返したと考えられます。

この古墳群の周囲には「狸沢山古墳群」「蒲生田古墳群」「二色根古墳群」など数多くの同様な古墳が分布し、500 基以上がかつては「赤湯古墳群」と総称されました。これらは郡山遺跡群（沖郷地区）にある村々の住民の大規模な墓地であったと考えられ、飛鳥・奈良時代の重要な歴史遺産です。

※1＝古墳時代後期に見られた、古墳の側面に入り口を設けた石積みの墓室。

※2＝古墳の盛り土。

※3＝一度人を葬った後、同じ古墳に別の人を葬ること。



南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄
平成 30 年 1 月 1 日号 市報なんよう掲載